

家具の寸法を測る時には、多くの人はメジャーを用意して、センチメートル単位で測っていると思います。すっかりメートル表示は私達の暮らしの中に根付いています。でも、住まいの面積では逆で、7.5㎡と言われて簡単にイメージ出来ませんが、4畳半と言われればすぐに分ります。畳2枚分が1坪なので坪数で考えてもそれ程無理はないでしょう。そして1畳分の広さは丁度大人一人が横になって寝そべることが出来る広さです。実際に使っている寸法をセンチメートルで表すと、1間=6尺=182cmとなります。メートル表示で書かれると割り切れなく中途半端に感じますが、寸や尺は人の生活の中ではいまだに使われています。日本の伝統楽器の尺八はその名の通り1尺8寸=約55cmの長さです。日本の尺のように伝統的な寸法はそれぞれの国に残されています。米国の寸法は、インチとフィートです。現在でも生活の中で普通に使われています。1インチ≒2.54cm⇔1寸≒3.03cm、1フィート≒30.48cm⇔1尺≒30.30cm、実は尺とフィートはほとんど変わらないのです。畳の短辺の長さである半間=3尺は、3フィート=1ヤードで表されます。ゴルフやフットボールの距離感も畳が敷いてあると思うと生活感があります。日本の寸と尺は十進法であるのに対し、インチは、12インチ=1ヤード、1マイル=1760ヤード、と単位が複雑です。それぞれの国に特有の歴史や文化があり生まれてきた寸法や単位に違いがあるのは当然です。そこでメートルという国際的な単位で表記することが定められました。日本で畳や坪が使われているようにどの国も古くからの寸法を大切にしながらメートルも使っています。尺やフィートは生活に密接して生まれてきた寸法であり、その起源は身体寸法、つまりヒューマンスケールにあると考えら

ヒューマン

快適住まいの家学

れています。食文化の変化により日本人の体格も欧米化してメートル単位で空間づくりをもっともらしく言われる会社もありますが、人に心地よい寸法としてのヒューマンスケールは、世界に共通しているのではと思います。日本では1958年からメートル表記を使うことが定められましたが、そもそもメートルの起源は地球の子午線の長さの何万分の1、その後光の速さで何億分の1秒間に進む距離を1mと定められています。地球の大きさや光の速さから生まれたメートルで家の寸法を決めても、とても使い易い暮らし易い設計が出来るのかが疑問になります。

人と人の4つの距離

①夫婦や恋人の密接距離、②個人的な付き合いとなる個体距離、③会話出来る社会距離、④講演などでの公衆距離があります。この4つの対人距離を人は無意識のうちに使い

スケール

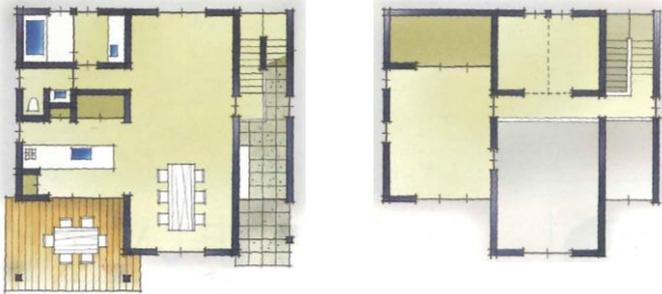
分けしています。密接距離は1畳に2人がいる感覚で

個体距離は3畳間に4人が集まっている感じです。社会距離は8畳～の距離になり公衆距離は16畳～の距離になります。

モノの寸法と収納

住まいの空間には様々な家具や雑貨も有ります。これもそれぞれ全く違う寸法があります。家具屋さんに並んでいる収納家具の奥行は45cm・60cmが多くなっています。本棚など薄型の収納は奥行きが30cmです。収納家具も結局、1尺・1.5尺・2尺の寸法でまとめられています。布団を入れる押入は奥行3尺、洋服をしまうタンスは60cm=2尺が使い易いです。キッチンや洗面の奥行も60cm=2尺です。これは1mの半分の50cmでは足りません。また、水回りのサニタリー小物収納は奥行き30cm=1尺、18cm、15cmが多くなっています。これらの細やかな収納をしっかり確保すると暮らし易さが格段に向上します。ヒューマンスケールでの細やかな設計をしましょう。

気にならずに



1階/19.50坪 2階/13.00坪 TOTAL32.50坪

キッチンはどこへ向く!

ちょっと発想を変えて、キッチンの位置を変えてみる。普通ならLDKの北側にキッチン置き、リビングに続いた和室でもつくるところである。キッチンを南に配置して、まるでデッキをアウトダイニングとして使う。庭との繋がりも生きて、リビングの使い方にも新しい配置が生まれそうな気がする。気候や天気具合に合わせて、家の使う範囲が変わるのも楽しい生活になります。



キーワード「電力の自由化」

いよいよ2016年4月から電力の自由化が始まります！まだまだピンときていない人も多いと思いますが、既に2015年4月17日の段階で届出があった新電力会社(特定規模電気事業者)は654社もありました。電力自由化のスタート時点で開業する会社は、恐らく200~300社あるだろうと予測されています。

電力自由化で私たちの生活はどのように変わのでしょうか！まずは、これまで住居地域ごとに決まっていた電力会社を、地域に関係なく自由に選ぶことが出来るようになります。企業努力をせずに値上げばかりしている会社は敬遠さ、少しでも乗り換えることになり料金プランも電社は敬遠さ、安い会社にとが出来る。また料金会社によって多様化が進み、自分たちの生活パターンに合わせて選べるようになります。中には料金は少し高くても原発ではなく、太陽光や風力などの再生可能エネルギーで発電した電気にする人も出て来るでしょう。名乗りを上げている企業には様々な業種があり、自社の商品を買ってくれるお客様に対して電気料金のサービスを企画しているところも沢山あります。例えば、ガソリンスタンドの会員になるとか携帯電話を利用するなど電気料金が割引になったりしそうです。他にも、デパート・スーパー・航空会社等々多様なサービスが想定されます。もう一つは、節電が大きく変わります。ピーク時の電力不足に節電で応えてましたが、これからは、節電分を買取ってくれる「ネガワット取引」が登場します。

ちょっと得する話

キーワード「家と庭を同時に考える」

家を考えるとき大事なことは庭を同時に考えることが理想です！外のスペースとの繋がりや自然との関係を前提に家と庭を同時に考えればとても良い暮らし方が出来ます。一番良くないのは、ついでに外構を考えることです。家の中のリビングと外のリビングである庭との動線をしっかりプランニングします。その結果がいい「家庭」に出来上がります。日本には二十四節気という季節を表す言葉があります。春が立つと書く立春から東風が吹き始め春を告げる季節を感じます。水がぬるみ草木が芽生え始める雨水という2月19日頃。啓蟄、春分、すべてに精気が満ちて草花が咲き始め雨を経て夏まじり、小満、小暑、大暑、

家づくり庭づくり

8月8日頃から立秋で始まり、処暑、白露、秋分、寒露、霜降と移ります。やがて11月8日頃の立冬で冬を感じ始め、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒と二十四節気はまとめられます。この節気を感じ、つかみ、どう活かすかがストレスを生まない健康的な住まいをつくる暮らし方ではないでしょうか！自然のパワーやエネルギーを取り込み、精気を持って元気に暮らして行きます。そして、季節の流れが人の体内時間と連動し植物や樹木などと共に生き、暮らしていけることが大事であると思います。家と庭を区分せず命ある私達が自然の中の一つの生き物であると感じられれば、住まいは完成に近づきます。そして、その楽しみ方の中にこそ施主の個性が生かせる空間になるのではと思います。